

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	大覚野牧場管理運営費				
担当課係名	農 林 課	農 務 係	作成者	茂木博巳	
総合計画での 位置づけ	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち			総合計画の ページ 63
	基本計画	特色ある農業の振興			
	主要施策	畜産の振興			
予算費目	一般 会計	6 款 農林水産業費	1 項 農業費	4 目 畜産振興費	
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規 / 継続の区分			
性質区分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根拠法令等	地方自治法 牧野法				
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運営方法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	肉用牛農家の預託放牧、乾燥の生産販売等
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	預託放牧の推進により、肉用牛の低コスト生産、経営規模の拡大、他作目の導入による複合経営基盤の確立を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	大覚野牧場を核にした畜産の振興を図り、有畜農家と耕種農家の交流を促し循環型農業の推進を図る。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績	
効果	活動指標	牧場面積	ha	176	176		
	成果指標	放牧頭数	頭	152	180		
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額	
	事業費（人件費を除く）(A)			7,034	6,738		
	財源内訳	国 庫 支 出 金		0	0		
		県 支 出 金		0	0		
		地 方 債		0	0		
		そ の 他		4,683	5,812		
		一 般 財 源		2,351	926		
		人 件 費 (B)	—	15,706	16,142		
		職 員 数	—	2.0	2.0		
		職 員 平 均 人 件 費	—	7,853	8,071		
	(A) + (B) 投下コスト		—	22,740	22,880		
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	129,205	130,000	
				—			
市民1人当たりのコスト(円)		—	713	729			

【事務事業の今までの成果】

預託放牧の推進により、肉用牛の低コスト生産、経営規模の拡大、他作目の導入による複合経営基盤の確立に寄与するほか景観保全等牧場の役割は大きい。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	公共牧場の多くは、建設されてから３０年以上経過していることから、農家戸数の減少等により預託頭数が減少傾向にある。また、これまで行われてきた補助金等の見直しが検討されるなど公共牧場をとりまく環境は大きく変化してきている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	平成７年度から平成１８年度にかけて草地の整備改良を行ってきたが、さらなる改良の要望がある。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
B	A	現状のまま継続（実施）	公共牧場の必要性は十分に認められるが、効率性について適当な負担かどうか見直しする余地があり、B判定と判断した。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

放牧料の見直し。
遊休牧区の整備。
放牧牛の増加に対応できる受け入れ体制の整備。（管理人体制等）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B	放牧による労働力の省力化と経営の低コスト化を図る上で、公共牧場の役割は重要である。そのため放牧の受入れ態勢や運営方法について検討が必要と考える。

一次評価診断図

